

「スマート林業プロジェクト」（案）について

1 概要

森林環境税の創設や技術革新の急速な進展など林業を取り巻く状況が大きく変化する中、最先端技術を取り入れた林業・木材産業のスマート化を図る新たな林業プロジェクトを策定し、林業の成長産業化による地方創生の実現を目指すもの。

2 戦略目標〈10年間〉（R10（2028）年度まで）

項目	プロジェクト開始前 2004(H16)	現状 2017(H29)	当面の目標 2024(R6)	10年後の目標 2028(R10)
県産材の生産・消費量	17万m ³	37.5万m ³	60万m ³	70万m ³
新規林業就業者数 (H17からの累計)	-人	352人	546人	800人

3 実現に向けた行動計画〈4年間〉（R4（2022）年度まで）

（1）川上（林業生産）

①森林施業

「とくしま森林バンク」による施業対象地の拡大と森林サイクルの確立

②生産基盤

ICTなど最新技術を活用し、計画段階から現場施業におけるコストの低減

③担い手

増加する現場作業に必要な担い手の更なる育成・確保と安全対策の強化

（2）川中（木材加工）

①加工体制

増産に対応した加工体制の充実と「徳島すぎ」ブランドの強化

②流通体制

川上から川下を結ぶ流通過程における低コスト化及び物流体制の強化

③開発・実装

大径材加工技術や木材乾燥技術等の産・学・民・官連携による普及と実装

（3）川下（木材利用）

①県内需要

県産材利用促進条例に基づく県民総ぐるみの木づかい運動の推進

②木育

全国木育サミットのレガシーを継承し、木材利用の拡大の推進

③県外需要・海外輸出

東京オリ・パラから万博を契機とした大消費地や海外への発信強化

4 パブリックコメントの結果

○ パブリックコメント

〈提出意見数〉 59件

〈主な御意見〉

- ・ 伐採後の再造林が確実に行われるよう食害対策等の推進
- ・ 新たな森林管理システムにおける県の支援の必要性
- ・ 県産材を利用した新商品開発の取組の推進

5 スケジュール

令和元年7月：6月定例会経済委員会（付託）最終案報告
策定予定